

会 議 録

1 会議名

令和4年度 第5回金谷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）金谷区の地域活性化について（公開）

3 開催日時

令和4年7月27日（水） 午後6時から午後7時8分まで

4 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：村田敏昭（会長）、山井広子（副会長）

石川美恵子、大瀧幸治、加藤國治、神崎 淑、小林雅史、高橋敏光

高橋 誠、高宮宏一、土屋博幸、平良木美佐江、益田侑季

（欠席3人）

・事務局：南部まちづくりセンター 滝澤センター長、難波主任

8 発言の内容

【難波主任】

・川住副会長、長委員、山本委員を除く13人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

・同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることを報告。

【村田会長】

・会議の開会を宣言

・会議録の確認：小林委員と加藤委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【滝澤センター長】

- ・配布資料の確認
- ・次第に基づき、議題の確認

【村田会長】

- ・「議題等の確認」について質疑等を求めるがなし。

— 次第3 議題（1）金谷区の地域活性化について —

【村田会長】

次に次第3 議題（1）「金谷区の地域活性化について」に入る。事務局より説明を求める。

【難波主任】

- ・当日配布資料No.1により説明

【村田会長】

当日配布資料No.1には、令和4年度に採択した14件の地域活動支援事業の中から、委員が考える令和5年度以降も活動継続されていくのが望ましい事業の調査結果が記されている。

記載の順番で元気事業へ転換することについて、意見を求めたいと思う。

14人の委員全員が丸を付けた、整理No.2「正善寺ダム周辺の紫陽花の維持管理及び水質保全と環境美化事業」、そして8人の委員が丸を付けた、整理No.1「滝寺自然公園整備と環境保全・保護活動事業」が半数以上の賛成を得ているが、この2事業でよいのか。その次に、6人の委員が丸を付けた整理No.4、6、11、13も合わせると6事業となる。その他、令和3年度以前に行った地域活動支援事業では、4事業で継続してほしいとの意見が出ている。

まずは、これらの当日配布資料No.1の1と2の調査項目について、石川委員から順番に意見を求める。

【石川委員】

14人全員が丸を付けた、整理No.2の正善寺ダム周辺の事業について、私は毎日、この正善寺の周辺を歩いて見ている。

最近、トリマーというチェーンソーの長いもので切っているが、あれでは花が咲くわけがないと思う、なぜあのような切り方をしているのかと思っている。

あのような切り方ではなく、花が咲いた枝を切ればよいと思う。来年咲く枝はほとんど切っており、トリマーで真っすぐに切っており、すごく残念である。いつも思うが、下枝をきれいに切って、グルグルと丸めて、上の残った花を付けたまま縛る等して、紫陽花の手入れのやり方ではないことを行っていると思う。「専門家もついている」と言っていたため、それ以上のことは何も言わなかったが、今年はトリマーで切っており、私はあのようなやり方ではなく、やるのであれば大勢のボランティアでも良いので、咲いた花をこまめに切っていけば、冬囲いも必要ないと思う。そのようなやり方で花はたくさん咲くはずである。この事業をやるのであれば、もう少し考えてほしいと思う。だが、この事業は全員が賛成している。私も賛成だが、まさかあのように枝を切るとは思わなかった。他の委員も是非見てほしい。枝を切っていないところは来年花が咲くと思うが、切られた枝は来年、ほとんど花が咲かないと思う。整備のやり方を考え直してほしいと思う。

また、私も関わっている整理No.6の「ミニ新聞」も6人の委員から丸が付いた。拡大できれば嬉しいと思っている。世の中には、自分の考えを聞いてほしい人、そして何かを変えてみたい人が結構いることがよく分かったため、拡大できれば良いと思っている。

【村田会長】

6人の委員が丸を付けた事業まで、合計6事業を継続してはどうか、ということか。

【石川委員】

そうである。

【村田会長】

次に大瀧委員より意見を求める。

【大瀧委員】

これだけの委員が関心を持って丸を付け、私も良いと思っていたため、特別、反対することはない。

【村田会長】

次に加藤委員より意見を求める。

【加藤委員】

私も上から順番に6事業は、是非継続してほしいと思っている。

あとは2の項目にある、「里道（旧後谷線）の整備事業」は、私もそこを通過して南葉山に行ったこともあるため、ぜひ継続事業の中に入れてほしいと思っている。

【村田会長】

次に神崎委員より意見を求める。

【神崎委員】

私はどれも素晴らしい事業だと思うので、丸を付けた委員が一人や二人の事業であつても継続して良いと思っている。

遅れて出席したため、状況がよく分かっていないが、これから各委員に意見を聞くことになるのか。

【村田会長】

そのとおりである。

【神崎委員】

どの団体を呼んでといった話になると思うが、やはりその場には、できるだけ多くの団体から来ていただいたほうが良いと思っている。

【村田会長】

次に小林委員より意見を求める。

【小林委員】

どこかで線を引くとなれば、丸を付けた委員の人数が「6人より上」という気がする。これを個別に元気事業にするとすると、これまでの単純な地域活動支援事業とは異なって、今度は、地域協議会や行政が、少しは意見交換ができるという変化があると思う。そのため、さらにステップアップするために、といった意味のプラスの議論もできると思うので、ひとまず、「6人より上」という線を引くのであれば

線を引いて、皆に声掛けをした上で提案団体が継続するかどうか、ということになると思う。またそれに対して、地域協議会の意見等を聞いてもらえるのかどうかも含めて、議論をすればよいのではないかと思う。

【村田会長】

次に高橋敏光委員より意見を求める。

【高橋敏光委員】

当日配布資料No.1を見ると、丸の数が六つまでということであるが。丸の数が3人の、整理No.5「毘沙門天案内看板及び滝寺砦周辺の整備並びに古道の整備事業」は整備が概ね終わってきているように思っている。

次の整理No.3「安全安心見守り防犯活動事業」は、各町内会、または飯支部や南の方もあがるが、これは子どもを迎えにいくなどの防犯活動、そして私の町内会でも行っているが、夜間パトロール、これは自主的な防犯活動であるため、このままで良いと思う。

次に、整理No.8「平山で花&夢いっぱい咲かせよう運動事業」は、模範的な形で良いと思うが、私の町内会ではそれよりも広い面積のところに花をたくさん咲かせている。

次に整理No.10「バレーボール文化の普及及び青少年健全育成事業」は、その時だけの話で終わってしまっているような気がする。

整理No.12「金谷区飯支部の交通安全確保事業」も各支部で活動しているため、それほど問題ないと思う。

整理No.11「大貫4町内合同避難訓練・防犯体験事業」は、まだ終わっていないが、どんな事業なのかははっきりと承知していない。

整理No.9「『金谷山とレルヒ』～レルヒ少佐と心かよわせた仲間たち～事業」についても、金谷山に立派な資料館もある。そういったことで、これもまだ形として残っていないため、分からない点がある。

そうすると、丸が六つあった事業を対象に協議することで良いと思っている。

【村田会長】

次に高橋誠委員より意見を求める。

【高橋誠委員】

的外れなことを言うかもしれないが、了承願う。

資料に記載のある、昨年、またはそれ以前の事業の中でやることは非常に素晴らしいことだと思う。ただ、元気事業とはいったい何なのか。根源というか、コンセプトがしっかりしていないと、どういうふうにもこの中から選ぶのかということが、不明確になってくるような気がする。

今ほど、高橋敏光委員の発言にもあったように、事業の中には単年度で終わる、終わった事業が結構含まれている。果たして、そういった事業が元気事業にあたるのか否かといった協議が最初に必要ではないかと思う。これは、あくまでも個人的な意見である。

【村田会長】

次に土屋委員より意見を求める。

【土屋委員】

意見を求められているのは、8月19日、20日に予定している意見交換会に参加していただく団体はどれにするのか、ということか。

【村田会長】

次年度以降も継続してほしい事業について、委員にアンケートを取り、その結果が当日配布資料No.1に記載されている。その結果をそのまま認めてもらい、元気事業への転換ができ、相談ができるような仕組みにしてもらえれば、これから動けるということである。

【土屋委員】

では、8月19日、20日の意見交換に来てもらうことが前提ではない、ということか。

【村田会長】

もちろん協議をするために、団体と話をして、例えば、大貫4町内合同避難訓練は3年に1回の事業であるため、来年は予定がない、と言われることもある。

そのため、令和5年度に取り組むことができる、継続したい事業という考えでいてほしい。

【土屋委員】

令和5年度以降も継続して欲しい事業を委員に聞いたわけであるので、委員としては「この事業を継続してほしい」ということである。もちろん、どういう団体が、どういう考えをもっているのか、ということもあるが、「令和4年度に地域活動支援事業をお願いしたが、令和5年度以降はやるつもりはなかった」という団体が出てきたとしても良いということか。

【村田会長】

そのとおりである。

【土屋委員】

団体が事業を実施するので、「金谷区地域協議会ではこのように考えている」といったことを提示して、令和5年度以降も継続したいということであれば、意見を聞かせてほしい、ということで私はよいと思う。

それがどの団体になるのかということもあるが、丸を付けた委員の人数が多いということであって、団体の意欲があるのであれば、検討事項として意見を聞くことは良いと思う。

【村田会長】

次に平良木委員より意見を求める。

【平良木委員】

地域協議会として「継続してほしい」ということはあると思うが、丸を付けた人数の多い事業に声をかけることは良いと思う。

いくつかに絞るとか、個別に送った時にたくさんのを挙げる必要がある、そういう制限がないとすれば、この丸が六つ以上くらいの団体に声をかけ、その中で団体の意向を聞くやり方で良いと思う。

先ほどの高橋誠委員の発言にもあったように、私も元気事業ということの性格がまだ十分によく分からないところがある。市の役割、地域の役割を明らかにして取り組むことになると思うが、そのあたりを地域の人たちとどういうふうに理解しあうのか、プランを立てるのか、というところが、お互いに見えるように、どこでしたらよいのかということがよく分からない。

そして、正善寺ダムの紫陽花事業については、地域活動支援事業が終わっても、上越の観光の目玉としてやっているわけであるため、ぜひ続けてもらいたい。予算措置がなかった場合、どうなるのかということが、ずっと気になっていた。何か別の市の制度がないのかと思っていた。滝寺砦についても同様である。とてもきれいに整備がされているが、これを「お金がないからやめる」ということは、とても残念であり、何とかしてほしい。特にこの2事業について思っている。

正善寺の紫陽花についての歴史を聞いた。最初は市が主導で行っていたが、いつの間にか市は手を引いたと聞いた。これを機会に、市と地域との役割の在り方みたいなものを考えるきっかけとして、お互いに考えていくことは良いと思っている。

【村田会長】

次に益田委員より意見を求める。

【益田委員】

令和4年度に採択した事業の中から、ということであれば、丸の数が六つ以上の事業の中から選ぶ形になるのかとは思っている。だが、私は元気事業というものがよく分かっていないが、元気事業をするときに、いくつも採択できるのか、それとも一つだけを採択するのか。そこがよく分かっていないところもある。

【村田会長】

私たちも初めてである。元気事業が一つなのか、五つなのか、10個なのか、未定である。いずれにせよ、9月の予算編成の時期までに取りまとめなければ、令和4年度に提案のあった14の事業は「資金がない」ということになってしまう。

また、「元気事業」と「地域活動支援事業」はどこが違うのか、といった疑問を皆、持っていると思う。だが、元気事業として取り込んで、これから週一回のペースで皆と打ち合わせして、何とかやってみよう、と「駄目かもしれない」と小林委員は言っていたが、やってみようということで、今回アンケートまで取った。アンケートで丸を付けた委員が6人以上いる事業を目的として、団体とも話し合いながら、8月19、20日の意見交換につなげられれば良いと考えている。

【益田委員】

そういうことであれば、意見交換をすることが一番大事だと思うので、丸が六つ

以上付いた団体から参加いただくことが良いと思う。

【山井副会長】

私も6団体と、加藤委員の意見にあった「里道（旧後谷線）の整備事業」が良いと思っている。

【村田会長】

各委員より意見を伺った。

総体的には、令和4年度に提案のあった14件の地域活動支援事業の中からは、上から順番に6団体と交渉してみてもどうかとの意見が大多数であった。

そして、令和3年度以前の採択事業の中からは「里道（旧後谷線）整備事業」を継続することが良いのではないかと意見があった。そのため、令和4年度の採択事業からは6団体、それ以前の採択事業からは1団体の計7団体となるが、「里道」の団体に声をかけることについて、どう思うか。一部では、整備が大体、終了したといった話を聞いてはいる。

高橋敏光委員、状況等、何か知っていれば教えてほしい。

【高橋敏光委員】

私は、あまり山には行かないが、入会してほしいと言われ、里道の提案団体の会員になっている。以前の団体の会長が亡くなられ、新しい会長に代わってから元気を失くしてしまい、去年は活動等が止まっているように思う。

山道は、3年間、草取り等を行わなければ人が通れなくなってしまう。とにかく、枝を切る、草を刈る等することが仕事だと思うが、この事業は里道を整備していくことが目的だと思う。どれだけの人がピクニックや登山等で里道を利用しているのか、まだ数字がはっきりと分からない。そのため、この団体を意見交換等に呼んで、事情をよく聞いてみなければ分からないと思う。

次に、全員が丸を付けた「正善寺ダム周辺の紫陽花の維持管理及び水質美化事業」については、毎年のことであるため、市に話しても良いと思う。私の町内会の公園でも、市から「公園のパークパートナー」というお金をもらい、年4回の草取りを行っている。もともとは市で植えたものであるため、市から直接、補助金等がもらえるように思う。そうすれば、この事業の予算を使わなくても良いのかと思う。こ

れは完全に市の事業としてやってもらいたいという感じがする。

【村田会長】

結果をまとめる。

令和4年度に提案のあった14件の採択事業の中から6事業、その他に令和3年度以前の事業の中からは「里道（旧後谷線）整備事業」の合計7件について、継続実施が望ましい事業とすることでよいか。

（よしの声）

それでは、委員の承諾を得た7団体との話し合いの場を持ちたいと考える。

事務局の説明にもあったように、8月19、20日の意見交換会までに、これを進めていくわけである。この話し合いについては、委員の中から週一回の意見交換会や会議に出席いただきたい。「団体と一緒に話をするのが可能だ」、「話をしたい」という委員がいれば、協力を仰ぎたいと思う。

一つの案としては、正副会長が窓口になり、19、20日までに団体と話をし、そこへ持ってこられる団体が七つの事業の中でいくつあるのか、その確認を正副会長で行う。その後、元気事業等に取り組む打ち合わせ等を週一回行う。都合をつけて一緒に取り組める委員はいるか。

【小林委員】

一つ質問である。

まず、先ほどの7団体に「令和5年度以降も継続して実施してほしい」ということを言い切ってしまうとよいのか、よく分からない。これまで継続的に活動してきたが、いきなり予算措置がなくなってしまうことに対して危惧しているため、「何か手を差し伸べたい」ということで選んだ事業がこれだと思う。

令和5年度に予算を得るためには、9月以降で新たなアプローチが出てくる可能性もあると中川市長も言っているが、現時点では「元気事業」という形での提案しかない。ただし、元気事業として申請するためには、これまでの地域活動支援事業とは違って、地域団体だけの思いではなく、地域協議会、市とも協議をしなければならない。

先ほど高橋敏光委員の発言にもあったように、「市による事業実施が良いのでは

ないか」ということも、話し合いの場が持てるため、非常にプラスだと思う。そのため、まずはこの7団体の中で、元気事業という形で、三者で意見交換をしたいと思う団体から手を挙げていただいてはどうか。

一つ気になることは、行政等と話し合いをするタイミングが、大体いつになるのかということである。提案する前なのか、後なのかによって、進め方が変わってくるような気もする。

【村田会長】

事務局より補足等あるか。

【難波主任】

提案前に、市と団体が協議をすることになる。

資料No.1を参照してほしい。

⑥の、9月28日に予定している、第8回金谷区地域協議会で元気事業を提案し、内容を決定することとなる。

その前段階で、地域協議会と意見交換を行うことを①・④・⑤で設定している。その意見交換の場で、具体的にどういった取り組みをしていくのかを協議していくことになる。

【小林委員】

そうすると、行政と話をするとなった場合、イメージとしては9月7日あたりになるのか。

【難波主任】

今、考えているイメージとしては、⑤の9月14日に市の関係課も交えて協議ということで考えている。最終的な素案を決定する前段階になるかと考えている。

【小林委員】

そうすると、手を挙げるかどうかは、書面でよいと思う。そして、手を挙げた団体がいくつあり、案内する段階でもやはり、単純に地域活動支援事業とは異なると。そして、地域協議会との意見交換もあり、行政とも話し合った上で、今後の進め方を決定していかなければならない、という前置きをしっかり伝えた上で、手を挙げていただいた団体とは、やはり地域で活動している様々な団体であるため、できる

限り地域協議会側も参加できる委員で意見交換をしていったほうが良いのではないかと思います。

【村田会長】

そうすると、8月19日、あるいは20日の1回目の意見交換会に参加してくれる団体へのアプローチ、打合せ等は、事務局と正副会長で協議をし、団体に確認したいと思う。

その後は、資料No.1記載のスケジュールで、参加できる委員が出席して進めていくこととしたいと思う。8月19、20日までに、七つの団体に事務局と正副会長で声掛けをしたいと思う。参加するか否かは団体の自主的な判断になると思うため、資料記載のスケジュールで進めていきたいと思う。

【高宮委員】

⑤の市関係課との話し合いが9月14日となっているが、令和5年度の予算については10月までに提出することになっていると思うが、この時期に出して間に合うのか。

予算的な組み合わせ等で意見を出したときに、私の考え方でいうと少し遅いのではないかと考えている。

【難波主任】

資料No.1の案については、9月中旬に市の関係課を交えて協議をし、それを受けて素案が決まれば、実際に予算編成の作業開始が10月からとなるため、何とか間に合うのではないかと考えている。

【高宮委員】

予算編成に入って候補が出てくると、大体この枠が市としてはみると思う。だが、いっぱいになってくるとこの時期では遅いのではないかと私は思っている。先ほどの話の中で、何件の団体で金額がどのくらいになるのか分からないが、金谷地区でそれだけのものが別枠になっているのか否かというところが、私は大きな問題だと思う。予算がある程度出て結論を出してくると、「令和5年度には間に合わない」「令和6年度以降になる」といった回答が、町内会には返ってくる。そのため、遅いのではないかと考えている。「そういうことはない」ということで、事務局が納得して

いるのであれば問題はない。

【滝澤センター長】

高宮委員の発言としては、毎年、地域として要望をしている回答の中で、「市の予算に予定がない」といった返答がされることがあるため、今回、提案をする元気事業においても同様の結果にならないのかを心配しているのだと思う。

まず、期限についてである。

市の予算編成が10月から始まる。そのため、28地域自治区には9月末までに提出をお願いしている。

市の関係課も入った協議を「9月14日」と説明したが、もちろん、その一回きりではなく、地域協議会委員が入らなくても事務局と担当課とで何度かに渡って話を詰めるという場面はあるかと思っている。最終的な確認の場面が「9月14日」と考えている。

次に、予算の枠についてである。

確かに、一生懸命に考えて提案をしても、100パーセント保証できるものではないと事務局としても思っている。

市長がお願いしている中での取組みだというところで、一定の配慮がなされる可能性もあるのではないかと思っている。

【村田会長】

いずれにせよ、私たちも心配しながら、令和5年度に向けて「何もない金谷区になってしまうのはどうなのか」ということで、駄目かもしれないが「やってみよう」ということでアンケートまで取って、何とか元気事業に結びつけば良いとの思いで取り組みたいと思うため、心配をいただきながら進めていきたいと考えている。

では、7団体への連絡については、正副会長と事務局で取り組み、8月19日頃の地域協議会の時に意見交換ができるよう、進めていきたいと思う。

また9人の委員より、貴重なアイデア提案があった。これらの提案事業等については、令和5年度とは限らず、これから先の金谷地区の地域活性化に大きく結びつく提案だと承知している。これを基本として、次の会議等で打合せをしながら、金谷地区の地域活性化の大きなものに結びつけるよう、検討、協議をしていきたいと

考えている。

何度も言うようだが、元気事業が何なのか、私たちもよく理解できていない。しかし、最終的には、金谷区内の課題解決を図るものに結びついていくと理解している。

以上で次第3 議題（1）「金谷区の地域活性化について」を終了する。

— 次第4 その他 —

【村田会長】

次に次第4「その他」に入る。

資料No.2に記載されているように、当協議会が自主的審議事項で検討してきた防災機能強化を盛り込んだ、大貫4町内合同避難訓練が8月28日（日）に実施される。この訓練で得た経験を今後の自主的審議事項へ生かしていくため、当日の午後1時30分から、金谷区内の町内会長を招いて見学会を行う予定としている。

今後の自主的審議の参考とするため、委員も是非足を運んでもらえるよう、案内する。

以上で次第4「その他」を終了する。

— 事務連絡 —

【村田会長】

次第5「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【滝澤センター長】

- ・ 次回協議会：8月24日（水）午後6時から 福祉交流プラザ
- ・ 次々回協議会：9月28日（水）午後6時から 福祉交流プラザ
- ・ 当日配布資料：高田区において必要な大雪災害対策について（高田区 意見書）
株式会社よしかわ杜氏の郷 民営化に関する意見書（吉川区）
まちづくり市民意見交換会の開催について（ご案内）

ウィズ上越からのおたより

上越男女共同参画推進センター講座（チラシ2枚）

【村田会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831（直通）

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。